広陵町教育委員会だより

令和7年度　4月号　　4月14日発行
広陵町教育委員会
北葛城郡広陵町笠161番地2
TEL0745－43－6180　文責・編集　植村

春の野に　霞たなびき　うら悲し
**　　この夕影に　うぐひす鳴くも**

巻19−4290　大伴家持

春の野に霞(かすみ)がたなびいて物悲しく感じられる
この夕暮れの光の中に鶯(うぐいす)が鳴いています。

「凡事徹底」をこの時期に考えてみては！

今年は春の訪れがやや遅く、令和7年度がスタートした4月1日(火)には、サクラがようやく3分咲きぐらいとなりました。その後は花冷えの日々が続き、満開になったのが6日(日)頃となりました。

小中学校では7日(月)に、幼稚園・こども園では8日(火)に令和7年度1学期の始業式がありました。また、入学式は小学校が、8日(火)に、中学校が10日(木)に行われ、そして幼稚園・こども園の入園式は11日(金)に行われました。11日までは散り急ぎはしなかったサクラの花に歓迎された入園・入学式であったようです。子どもたちや私たち大人にとっても年度が始まるこの時期、人々との出会いをはじめ、様々な場面でも環境が大きく変わり、新たな環境の下での生活が始まります。

教育委員会もこの4月から、さわやかホールの2階に移転し、教育振興部の教育総務課、学校支援室は廊下を挟んで東側に、こどもまんなか部（こども課、こども政策課、子育て総合支援課）は西側に移りました。昨年度はこども局を教育委員会に編入しましたが、役場庁舎に教育委員会が、こども局がさわやかホールにあったことから物理的な理由から密な連携が取りにくかった状況がありました。しかし、今年度から、教育委員会がさわやかホール2階に移転し、こどもまんなか部に加えてけんこう推進課も同一フロアで業務を遂行できることから、こども・子育て支援と教育だけでなく、子どもたちの保健・健康面でも情報共有及び連携ができるメリットが生まれました。さらには、増大する特別な支援を必要とする子どもたちへの支援と教育に、障がい福祉を担う社会福祉課との連携により、より細やかな支援が期待できるところです。

教育委員会事務局がさわやかホールに移転したことで、教育と福祉の一体的な子どもへの施策が可能となり、「こどもまんなか社会」のさらなる実現を目指し、様々な施策を展開していければと考えています。

ところで、私がかつて校長をしていたとき、ある年の1学期始業式のあいさつの中で「**凡事徹底**」という言葉を子どもたちに示し、その意味を説明しながら今年1年間の目標の一つにしてほしいと話したことがありました。誰のが一度は耳にした言葉だと思いますが、あえて、言葉の意味を記します。

「**凡事**」が、ありきたりで当たり前であることをさし、普通に物事をやればできることで、「**徹底**」とは、抜かりなく手抜きをすることなくこなすことを意味します。日常生活において、物事を中途半端にせず、すべてのことに対して心を込めて取り組む姿勢をいい、単に作業を完遂することだけでなく、あらゆる事柄に対して熱心に取り組み、強い責任感を持つことを表しています。

「**凡事徹底**」は、人間が陥りやすい問題に呈して定義しており、簡単なことは手抜きをしてしまいがちであるということがこの「**凡事徹底**」から読み取ることが肝要で、物事が簡単でも徹底的にやり通すことが重要なのです。

パナソニックの創業者であった**松下幸之助**さんは、経営哲学の中でこの「**凡事徹底**」の精神を根付かせ、どんな小さいことでも最後までやり遂げることの重要さを説いて、これを実践することで成功を収められました。**松下幸之助**さんのこの姿勢が多くのビジネスリーダーや経営者に影響を与えて、「**凡事徹底**」の精神が日本のビジネス界に広く浸透するきっかけになったようです。また、ドジャーズの**大谷翔平**選手も「**凡事徹底**」の精神を体現しているようです。日々のトレーニングや試合、生活のあらゆる場面でこの哲学を実践した結果、野球界でたぐいまれな結果を残しています。

そのようなことから、新年度が始まったこの時期に「**凡事徹底**」という当たり前にできることを徹底的にやろうということを少し考えてみてはどうでしょうか。

詩のコーナー

た ん ぽ ぽ

足元に貼りついている黄色い花　たんぽぽ
そっと手をのばして　触れてごらん
はじめは風に乗せられた　白い羽についた小さな種が
仮の宿をここにと決められ　雨と太陽に支えられ芽生えて
いまこうして
おとなの力でも引き抜けないほどの
深い深い根の上に　まあるくあかるい花を咲かす
小さいからといっても　かえりみないからといっても
いのちの力は　生きてゆく力は　天に近い大樹とおなじ
ただ生きてゆく　いのちを続けてゆく
雨風と日光を浴びて　黄色の細やかな触手が育ち

娘よ　哀しくなったら
足元の小さな太陽を見るがいい
はるかかなた頭上の太陽は
雲に隠れてしまうことがあるけれど
そっとしゃがんで手に触れる
足元の太陽は　いつでも笑顔でそこにいる
どんな嵐の日でも　嵐の過ぎた黎明でも
漆黒の闇のなかでさえ　しっかりとたしかに
たんぽぽ

裏面へ

教育委員会の取組

思い出に残るバイキング給食！

3月13日(木)に、町内小学校の6年生を対象にしたバイキング給食を実施しました。この取組は昨年の7月16日に実施した1回目のこども会議で、私が「『笑顔あふれる学校、笑顔あふれる広陵町』にするために、子どもたち一人一人がアイデアや要望・意見を出し合い、話し合ったことをまとめてきてほしい。」と宿題を出しました。そして、12月17日に実施した2回目のこども会議で各小中学校から様々な要望が出され、東小学校からの要望の一つに「**給食への関心が高まるため、バイキング給食をする。**」というものがありました。その要望を受けて、教育委員会として卒業する6年生への思い出づくりにとバイキング給食ができるよう給食担当者と協議を重ね実施できることとなりました。

私は山村町長や松井副町長、村井部長とともに、バイキング給食を提案してくれた東小学校に試食に行かせてもらいました。多目的室では、2つのクラスが1テーブル6～8人に分かれての給食で、私たちはそれぞれに案内されたテーブルにつかせてもらい、6年生の子どもたちと中学校に入学したときの夢や希望を聞いたりしての楽しい食事となりました。どの子たちも満面の笑みを浮かべてのバイキング給食はとても楽しそうで、実施して本当によかったと思いました。

右の写真は真美ケ丘第二小学校のもので、上が3種類の主食のパンコーナーと3種類の主菜・デザートコーナーを写したもの、下が主菜を取り分けている子どもたちの様子を写したものです。

5つの小学校から、バイキング給食を終えての感想が子どもたちや先生方から寄せられましたが、「とても楽しくておいしかった。」や「後輩にもぜひ実施してあげてほしい。」の肯定的な声ばかりでした。私としてはこの取組が、卒業を目前に控えた子どもたちへの大きな思い出づくりになったと思います。

交通安全の横断旗、ランドセルカバーをいただきました！

3月25日(火)の午後、交通安全協会広陵分会の皆さんと香芝署交通課の方が教育委員会に来ていただき、子どもたちの登下校時に横断歩道等で使う「横断中」と書いた横断旗と小学校に入学してくるピカピカの1年生のために黄色のランドセルカバーを寄贈していただきました。

春の交通安全運動が始まっているこの時期には、車を運転されている方々には、交差点などで横断旗を持っている子どもたちがいたら、一旦停止をして安全に横断する子どもたちを見守ってあげてほしいと思います。

また、黄色のランドセルカバーを付けた子どもたちは1年生なので、地域の人や車を運転する方々には、「気をつけて登下校してね。」などの声かけと温かなまなざしでの見守りをお願いしたいと思います。

学校から

広陵東小学校

入学式の様子

令和7年度の入学式が行われ、新入生69名が入学しました。

新入生たちは、少し緊張した様子で式場へ入場してきましたが、名前を呼ばれるとみんな元気に返事をすることができました。在校生を代表して6年生が出席し、「ドキドキドン1年生」を歌って迎えました。

真美ケ丘第一小学校

58名の新入生を迎え、真美ケ丘第一小学校の3つの宝物を紹介しました。

一つ目は、広い芝生の運動場のことを。「3人以上で、体を使って、工夫のある遊びをたくさんしてください。」と。

二つ目は、優しい上級生のお兄さんお姉さんのことを。「縦割りグループ遊びでは、上級生が優しく遊んでくれます。本年度より、掃除も縦割りグループで行いますが、掃除も上級生が優しく教えてくれます。」と。

三つ目は、あたたかい地域の方々のことを。「黄色いビブスを着た真美一まちづくり協議会の方々や、PTAのパパママボランティアの方々が毎朝の登校を見守ってくださいます。花壇の整備、大掃除、授業のお手伝いにも来てくださいます。」と。

真美ケ丘中学校

4月10日、広陵町立真美ケ丘中学校第40回入学式を挙行しました。

式辞では、詩人相田みつをさんの「そのときの出逢いが、その人の人生を根底から変えることがある」という言葉を紹介し、出逢いを大切にしてほしいと述べました。

新入生代表は、「仲間とともに協力しながら、失敗を恐れず前に進んでいこうと思います。」と力強く誓いの言葉を述べてくれました。真美ケ丘中学校でよかったと思えるような生活が過ごせるように、職員一同真美中生を見守っていきたいと思います。

お知らせ　**他の学校は5月号に掲載します。**